

# 働く 生きる 私らしく from よさのうみ



## 第1回 仲間の変化をみつめて

障害者福祉センター夢織りの郷  
多機能型事業所つむぎ

寺内大輔

### よさのうみ福祉会の 歴史

京都北部地域では、「どんなに重い障害を持つ子供も入れる学校」「障害児の教育権保障」をめざし、親や関係者が十数年におよび地域を巻き込み粘り強く運動にとりくみ、養護学校義務化の10年前となる1969年に「与謝の海養護学校（現与謝の海支援学校）」が開校されました。

その後、「障害児が養護学校卒業後に通える場所の保障と、仲間達の豊かな発達を保障する場の確保」を目的として、親や家族、関係者等が中心となり地域や行政を巻きこんだ無認可共同作業所づくり運動が行われました。障害のある人や家族のねがいを実現させる粘り強い運動実践が行われた結果、多くの関係者の協力のもと、1980年に「社会福祉法人よさのうみ福祉会」が設立されました。よさのうみ福祉会設立当時は、「みねやま作業所」の1事業所からのスタートでしたが、現在は京

都府丹後保健福祉圏域に障害者支援施設（施設入所支援）1カ所、グループホーム11カ所、日中系事業所11カ所、相談系事業所4カ所、居宅介護事業所1カ所を展開。利用者約700名、職員約300名が在籍し、今年で法人設立39年を迎えます。

### ひまわり喫茶「よっこそ！」

障害者福祉センター夢織りの郷つむぎ（以下「つむぎ」）は、就労継続B型事業と生活介護事業を運営する多機能型の事業所です。つむぎには44名の仲間たちが在籍していて、基礎班は5班あります。今回はつむぎの中でも特に障害の重い仲間が所属する「ひまわり班」の報告を行います。

ひまわり班には現在8名の仲間たちがいます。障害の程度はさまざまで、会話のできる方から、重症心身障害があり認識的にも難しい方まで通所されています。

ひまわり班の仕事は週1回、つむぎ事業所内で営業するひまわり

喫茶が中心になります。ひまわり喫茶のメニューは各種飲み物と仲間たち手作りのチーズケーキです。仲間と職員と一緒に注文をとりに行き、できた商品をお客様に届けに行きます。商品を配達しながらお客様である事業所の仲間や職員とのコミュニケーションも楽しみます。お客様から「おいしかったわあ」「今日もありがとう」「楽しみにしてたで」と、たくさん話しかけてもらうことで、みんな思わず笑顔になりいきいきと働いています。



チーズケーキは、職員と一緒に手作りで製造しています。ミキサーにチーズケーキの材料を入れ、仲間が操作しやすいように補助具等を使用しながらゆっくり作業を行います。「今日はミキサーを回す担当をお願いします」「小麦粉と砂糖の分量を量ってね」と、仕事を任せられると、個々のペースやその日の体調に合わせて作業を行います。

労働時間は、身体的負担も考慮し、1週間のなかでも3時間程度

### 恵さんの仕事を 通じて…

恵さん（仮名）には重度の知的障害と肢体障害があります。支援学校卒業後、つむぎに通所しだす

です。仕事の時間としては長くありませんが、仲間の方も仕事に誇りをもちながら日々関わることができています。工賃は通所日数によって金額の変動はありますが、多い人で月額1万円くらいになります。正直、給料としてはそれほど多くはありませんが、自身が稼いだお金を、家族に気兼ねせず、自由に使えます。

稼いだお金を使って、美容院へ行ききれいに髪の毛をカットしたり、外食のとりくみに行きまわると豪華なランチを楽しんだり、観光地に行き家族におみやげを買ったりと、希望する思い思いのとりくみを行います。このように、仲間仕事を提供して工賃を払うだけではなく、その後のとりくみもていねいに行うことで、経験できる世界を広げています。